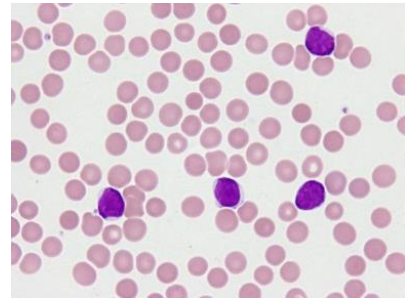


## 慢性リンパ性白血病 Chronic Lymphocytic Leukemia (CLL)

慢性リンパ性白血病 (chronic lymphocytic leukemia:CLL) は欧米では全白血病の 30%を占めますが、本邦では 3%とまれな疾患です。成熟したリンパ球 (B 細胞性) が、緩徐に増加していきます。無症状で健診などで白血球増多を指摘されて診断がつく場合が多いですが、全身倦怠感、リンパ節腫脹、発熱、体重減少、盗汗、貧血などが、初発症状のこともあります。採血や骨髄検査を行い表面抗原検査、染色体検査、遺伝子検査によって診断と病気の悪性度の評価を行います。



### 慢性リンパ性白血病の治療

病気は、白血病細胞の増加のみ、リンパ節腫大や肝臓・脾臓の腫れ、貧血や血小板減少など正常な造血の抑制、と進行していきます。慢性リンパ性白血病の病期分類としては Rai 分類、Binet 分類が使用されています。IgVH 体細胞突然変異陰性、ZAP-70 の発現、CD38 の発現、リンパ球倍化時間、染色体異常 (17p-, 11q-) などが予後不良因子となっています。多くは緩徐な経過を示すため、治療関連死亡を避けるべく治療開始基準を参考に慎重に治療法を選択しなければなりません。治療法はプリンアナログ製剤 (フルダラビン酸エステル) や抗体治療 (リツキシマブ) などが中心として使用されますが、海外では様々な薬剤 (Alemtuzumab、Ofatumumab、Burton tyrosine kinase 阻害剤など) の有効性が示されていて今後国内での採用が期待されます。